

新潟国際情報大学「AI 利活用のための教育プログラム」自己点検・評価
(応用基礎レベル)

【学内からの視点】	
	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	本プログラム（応用基礎レベル）は経営情報学部の学生を対象としており、修了要件は様式1⑤に記載された通りになる。対象科目14科目の中でその修了要件を満たすために必須の履修登録を行った履修者は合計78名で、修了者は合計70名であった。そして初年度の履修率は13%、修了率は89.7%であった。本学が導入するポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）の活用により、学務課と教務委員会において両科目の履修・単位修得状況分析を実施し、受講者毎の出席および課題回答状況を把握することができる。
学修成果	本プログラム対象の授業評価アンケートの定型項目尺度割合および自由記述欄の内容を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を学務課および教務委員会が連携し、本プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	毎年度半期ごとに、全学生に対して授業評価アンケートを実施しており、本プログラム対象14科目の授業評価アンケートの結果（「とてもよく理解できた」）は、以下の通りであった。 (1) 機械学習[24%] (2) 情報アクセスシステム[43%] (3) アルゴリズム[48%] (4) データサイエンス[39%] (5) 人工知能[52%] (6) 情報論[47%] (7) 線形数学[50%] (8) データベース論[33%] (9) 情報セキュリティ[39%] (10) コンピュータビジョン[42%] (11) デジタル戦略論[47%] (12) 応用統計学[41%] (13) 知識情報[50%] (14) システム数学[67%]

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>授業科目を対象とした授業評価アンケートには後輩等他の学生への推奨を問う質問がなく、自由記述欄に寄せられた学生からのコメントも非公開となっているため（学生のコメントに対する教員の回答のみ公開されている）、推奨度等は不明である。今後、授業評価アンケートの質問項目に推奨度を組み入れることを検討する。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムは初年度より高い履修率を実現している。新入生ガイダンスにおいてMDASHの履修説明を行い、データサイエンスプログラムの意義を伝えるなどの取り組みは既に行なっているが、更なる履修率の向上に向けた具体的な計画策定が望まれる。</p>

<p>【学外からの視点】</p>	
	<p>自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学の卒業生の就職状況については、キャリア支援センターが把握していることから、卒業生の就職先企業等での活躍状況や企業等の評価を把握することができる仕組みを備えているが、今後、卒業生を採用した企業等に対して企業アンケートを定期的実施していく必要がある。本教育プログラムを修了した卒業生は令和7年度から就職する予定であり、企業評価を把握することが可能となる。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学では、卒業生が就職している企業に対して、定期的に「企業アンケート」を実施している。この企業アンケートに数理・データサイエンス・AIの項目を追加することを決定した。これによって、これまで以上に企業側からのニーズ、意見を把握することができるようになる。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの対象科目14科目のうち7名の担当教員は実務経験が豊かな教員であり、企業・研究所の現場で数理・データサイエンス・AIの知識がどの様に応用されているのかを例示することによって、データサイエンスを学ぶことの意義を授業内で説明するようにしている。また、人工知能による五目並べの勝利判定の例題を授業内で用いるなど、学生が楽しく学べるカリキュラムとなる様に工夫がなされている科目もあるが、学生の好奇心を満足する授業科目数の充実が必要である。</p>
--	--